

## 事業実績報告書

### 1. 団体名

市民協働による地域防災推進実行委員会

### 2. 事業名

地域で支える防災協働ネットワーク ～仙台版体験型避難ゲームづくり

### 3. 活動実績

活動実施内容	
平成 24 年 8 月 8 日	第 1 回実行委員会開催 実施計画・予算書等の検討
8 月 22 日	第 2 回実行委員会 自助・共助の確認
8 月 29 日	ゲームの手法について第 3 回～26 回実行委員会実施
8 月 31 日	地域の方との共有 ～東中田地区防災ネットワーク会議 9 月ほっとネット in 東中田定例会で趣旨説明など～
9 月 19 日	第 1 回仙台市内協力者会議 東日本大震災における自助・共助・避難所運営について/12 月に第 2 回仙台市内協力者会議
9 月 21 日	第 1 回アドバイザー研修会 東日本大震災における自助・共助・避難所運営について 11 月までに 5 回開催
10 月 20 日	パイロットプロジェクト会議 ゲームの手法研修会開催
11 月 21 日	学生・若者意見交換会 仙台版体験型そなえゲーム実施
11 月 23 日	中間報告会 事業経過報告とシンポジウム
12 月 3 日	検討委員会への中間報告会
12 月 6 日	第 1 回学校教育用アドバイザー会議開催 5 回実施
1 月 9 日	ファシリテート研修会/実施会に向けてファシリテートを学ぶ
1 月 18 日	第 1 回実施会（東中田地区）1 月に第 2 回・第 3 回実施会開催
2 月 2 日	平成 25 年度公開プレゼンテーションに参加
2 月 12 日	検討委員会への平成 25 年度事業報告
3 月 20 日	平成 24 年度パイロットプロジェクト発表会 平成 24 年度事業報告及び仙台版体験型そなえゲームを実施 10 月・12 月・3 月かわら版を発行

#### 4. 活動成果

- 1、震災前から防災意識の向上、教育の促進に努めてきた各団体などと連携し、震災の教訓を活かした「自助・共助・連携」の視点から地域コミュニティの活性化を図る新たな「仙台版体験型そなえゲーム」の開発を進めることができた。
- 2、震災による被害を軽減するための自助や共助の促進及び自助、共助、連携の視点を取り入れた「新たな防災」の在り方やそのために地域に根ざしたコミュニティづくりを主眼とした地域連携を図るための具体的行動が課題であったが、「仙台版体験型そなえゲーム」の実施の振り返りを重ねることで東日本大震災の教訓である「自助・共助」を取り入れたゲームができた。
- 3、「仙台版体験型そなえゲーム」は地域社会資源を活かす連携の推進を組み入れた新たな地域コミュニティづくりを促す防災のツールにもなり、地域住民の新たな防災意識の向上、防災教育の取り組みの促進につながる。
- 4、仙台市民ばかりでなく日本の各地から来ていただいたアドバイザーさんたちと共有ができたことから、被災地仙台から全国に発信することが可能となった。
- 5、市民と行政が共に地域課題の解決に取り組み、その結果「仙台版体験型そなえゲーム」を完成し、普及にあたるどころまで協働事業を進めることができたことは大きな成果である。

#### 5. 協働による効果

- 1、行政との「公と私」の中間的領域での協働は、従来の公の領域で主体的に担う活動を行うことで、公共的価値を高め、地域課題を解決する一助となる。
- 2、市民協働は行政が市民と共に考え、同じ目線で市民一人ひとりの願いを実現しようとする行政の「市民が望む地域づくり」の象徴となる。
- 3、市民協働は市民に「市民の生活を尊重する行政」という印象をもたらす効果があり、協働に取り組む市民にとっては、自分たちが望む事業の信頼度を高め、より効果のある事業につなげることができるものとなる。
- 4、市民協働の推進は、市民の生活を尊重し、「新しい公共」の概念を具現化するものとなる。
- 5、今回の市民協働は、住民一人一人の「自助」の在り方の問い直しや災害に備えた地域づくり、「自助と共助」の在り方、地域と学校と行政の連携による防災システムの整備、未来に活かす防災教育の促進につながり、東日本大震災の貴重な体験と教訓を生かす防災都市仙台を印象付けるものとなり、復興事業の一助となる。
- 6、協働を行う市民にとっては、「新たなふるさとづくり」「未来へつなぐ安全なまちづくり」「東北の元気づくり」の復興三本柱を共に実現できるいい機会ともなり、仙台市民としての充実感を得られる事業である。